

国語科学習指導案

平成18年10月31日(火) 第5校時
1年1組 於：1年1組教室
指導者 宮前 嘉則

授業の視点

「ステップアップ式要約シート」を活用した要約のまとめの場面で、グループによる学び合い活動を取り入れたことは、的確な要約をする方法を身に付ける上で有効であったか。

I 目指す言語能力

文章の展開に即して内容をとらえ、目的や必要に応じて要約する能力。【C読むこと (イ)】

II 題材名

要約の達人になろう！

III 考察

1 生徒の実態 (男子19名, 女子16名, 計35名)

【国語への関心・意欲・態度】

説明的な文章の学習内容別に生徒の関心について調査した。結果は下の表の通りである。

音読や語句調べ、キーワード探しの学習、内容に関する調べ学習への興味は高いが、要約をする学習や要旨をとらえる学習、テーマに対して意見をもつ学習への興味は非常に低い。

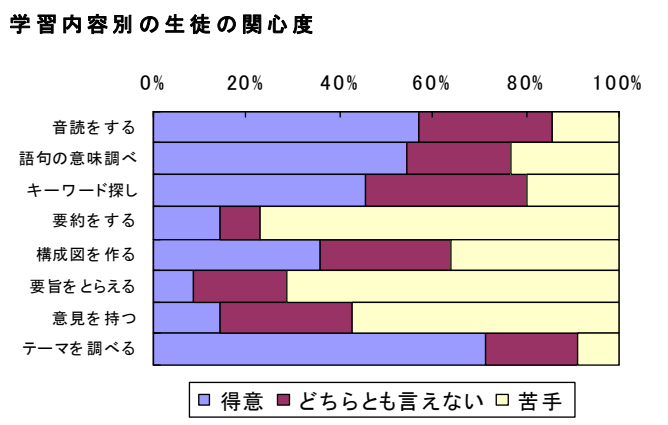
要約することを苦手とする理由として、「難しい」「文章をまとめるのが分からない」「答えに自信がもてない」「みんなと違う答えだと恥ずかしい」などが挙げられた。これらから、要約する学習への苦手意識は、文章の内容を正確に読み取れていないことにつながると思われる。文章の内容が正確に読み取れなければ、自分の意見をもつことも難しくなるであろう。

また、今までの学習での教師の観察から、グループによる話し合い活動への取組は、司会者や発表する順番を明確にしておけば、全員が意見を発表できる。しかし、そうでないと、一部の生徒の意見が中心になってしまい、何も言えない生徒が多くいる。

【読む能力】

小学校で学習した説明的な文章から、「キーワード探し」と「要旨把握」のテストを実施した。解答用紙には、問題の答えと答えを出すための方法(注意したこと)について記述させた。

「キーワード探し」の問題については、生徒の多くは、キーワードを繰り返し出てくる語句、題名にかかわる語句という認識で解答していた。しかし、キーワードを探す方法の記述では、「何度も出てきている言葉を探す」という具体的な方法を記述している生徒はわずかで、ほとんどの生徒は、「大切そうな言葉を探す」といった感覚に任せるような抽象的な記述をした。無記入の



生徒も目立った。

また、「要旨把握」の問題については、文章の最後の文をそのまま抜き出した生徒が多く、指示語を別の言葉に置き換えていなかったり、付加的な部分を整理していなかったりする解答が目立った。無記入の生徒も数名いた。要旨をとらえる方法の記述では、「最後の方の文を書く」「最後の段落をまとめる」という、やはり感覚に任せるような抽象的な記述が多く、「よくわからない（無記入も含む）」は半数近くいた。

【言語についての知識・理解・技能】

今までの学習の様子や朝読書の記録から、生徒の語彙力は個人差が大きいように思われる。1学期に行った説明的な文章の学習（『ちょっと立ち止まって』『クジラたちの声』）では、指示語や接続語を中心に段落のはじめの言葉に着目したり、問題提起と答えの文章に着目したりして、文章の構成をとらえる学習してきたが、おおむね達成されたと思われる。指示語については、小学校時、「こそあど言葉」という言葉で学習し、指し示す内容は前の部分にある等の理解を基に、指示する内容を文脈の中でおおむねとらえることができている。また、接続語についても、「そして」は文をつなぐ意味、「しかし」は逆も意味になる等、つなぎ方によってさまざまな働きがあることは理解している。

2 指導の内容と教材のかかわり（教材観）

①教材名 「未来をひらく微生物」（光村図書 1年）

②指導の内容と教材のかかわり

今まで行ってきた説明的な文章の学習では、教材文の内容を教えることが中心になってしまい、キーワード探しや要約の方法を、生徒任せにしてしまうことが多かった。「読み取りの方法」の指導があいまいであったことが、正確に読み取る力を不十分なものにしてしまったと考える。

中学校学習指導要領国語「C読むこと」の第1学年の指導事項イには「文章の展開に即して内容をとらえ、目的や必要に応じて要約すること」とある。要約する力は、内容や要旨の理解を確かなものにするために必要な力であり、その力をはぐくむためには、文章の展開に即して文章の内容を正確にとらえる必要がある。そこで、キーワードや段落の役割に着目し、文章の展開に即して内容を読み取り、的確に要約する力を身に付けていこうと考えた。この力は、「読み取りの能力」を身に付けることにもつながるであろう。

本題材で扱う学習材「未来をひらく微生物」は、普段その存在を気にすることのない「微生物」について、その働きと、それがもたらす環境改善への大きな可能性を述べ、生命への新しい視点をもたせる説明的な文章である。

この文章は18の段落からできており、大きく3つのまとまりに分けられる。微生物とその働きについて述べる序論、環境問題の解決策として、微生物を利用する2つの試みについて述べる本論、そして、筆者の主張を述べる結論というはっきりとした構成になっている。さらに、「まず」「そこで」「だが」などの接続語、「このように」「これらの」といった指示語が、段落のはじめに使われているので、それらの言葉に着目することで、問題提起の内容なのか、具体的な例の提示なのか、段落の関係や役割がつかみやすく、文章の構成が理解しやすい。

また、「微生物」「生分解性プラスチック」「共生」などの重要語句が文章中に繰り返し使われているので、キーワードとして見付けやすく、「病気の人に、栄養のある食事をとらせ、……と似ている。」「病気にかかったとき、……と似ている。」というように微生物による環境回復の仕組みを人間の健康回復の仕組みにたとえるなど、内容をより具体的に分かりやすく説明するための工夫が随所に書かれているので、生徒が日常生活におきかえてイメージすることもできる。

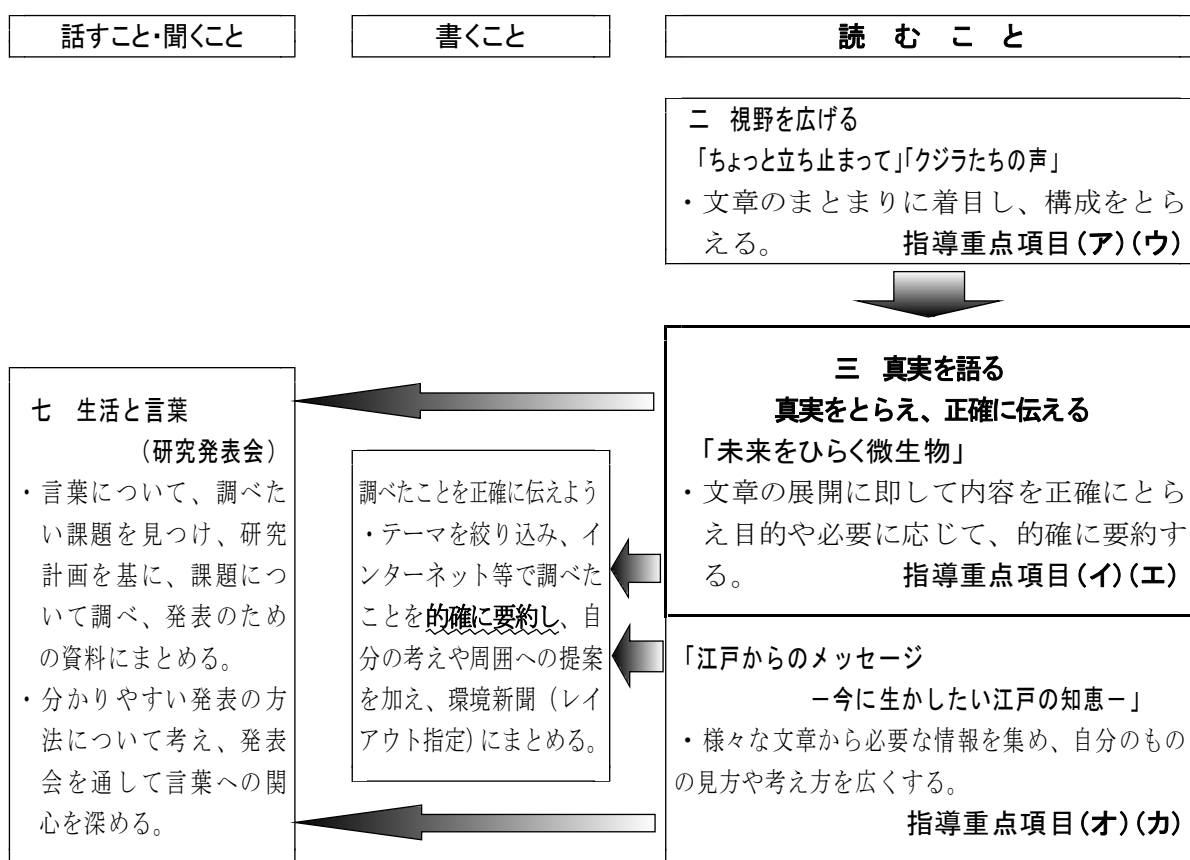
このように、文章構成やキーワードが理解しやすく、日常生活におきかえてイメージできる本教材で、「ステップアップ式要約シート」を活用することにした。「ステップアップ式要約シート」を活用する意義は、次の2点である。1つは、各意味段落の要約において、要約する際に注意する

点をステップアップさせることで、要約する際の注意点を小段階で意識できることである。これは、身に付けた力を利用したり、次のステップに挑戦しようとしたりする意欲も高まると考える。発展的に「ステップアップカード」（次時の学習のねらいを意識させるカード）を用意しておく。もう1つは、段落構成図を全体に示し、文章の構成を意識することで、段落の役割や段落相互の関係を考える必要性が理解できることである。これは、文章を読み取る過程が一目で分かり、考えの深まりを実感することになる。このことは、教材文の内容理解だけにとどまらず、さまざまな説明的な文章を読む際に役立つものになると考える。

以上のことから、本題材での学習を通して、「文章の展開に即して内容をとらえ、目的や必要に応じて要約する」という言語能力を育てていこうと考える。

3 題材の系統

1年時に学習する「説明的な文章」の系統は以下の通りである。



IV 指導の目標・指導計画・評価計画

(6時間予定：本時はその5時間目) ○おおむね満足 ☆十分満足

指導の目標	評価規準		
	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
キーワードや段落相互の関係に着目して文章の構成を正確にとらえ、文章の展開に即して的確に要約する方法を考える。	<ul style="list-style-type: none"> 学習目標をつかみ、文章の構成に注意して読み、よりよい要約をしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の展開に即して、文章の構成やキーワードやキーワードやキーセンテンスをとらえ、適切な言葉を選択したり、内容を整理したりして、要約している。 説明的な文章を要約する時の注意点について自分なりに考えた言葉でまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 接続詞や指示語、接続詞と同じような働きをもつ語句に注意し、段落の役割や段落内の各文の接続関係などを考えて読んでいる。

過程	学習計画	時間	評価項目		
			国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
つかむ	○初読の感想から、大まかな内容をつかみ、文章全体の構成（三つのまとめ）を考える。	1	○学習目標をつかみ、文章を読んで分かったことをノートに書いたり、発表したりしている。 ☆学習目標をつかみ、文章を読んで分かったことを進んで発表し、的確な言葉に注目して文章構成をつかもうとしている。（観察）		○接続詞や指示語等に注意し、段落の役割や段落内の各文の接続関係などを考えている。 ☆接続語や指示語等に注意し、段落も役割や段落内の各文の接続関係などを正確にとらえている。（教科書・ノート）
追究する	○第一のまとめ（はじめ）において、キーワードに着目して、微生物の働きを読み取りながら要約する。	1		○各形式段落の要約を参考に、「微生物」というキーワードに着目して、要約をしている。 ☆「微生物」というキーワードに着目して、微生物の働きを的確に要約している。（ワークシート）	
	○第三のまとめ（終わり）において、キーセンテンスを整理して、筆者の提言をまとめながら要約する。	1		○2つのキーセンテンスを選び、言葉を整理しながら、筆者の提言を要約している。 ☆2つのキーセンテンスを選び、適切な言葉を選択したり、内容を整理したりして簡潔に要約している。（ワークシート）	
	○第二のまとめ（なか）において、筆者が述べる具体的な試みを読み取りながら要約する。	1	○今までの学習を振り返りながら、自分なりに要約しようとしている。 ☆今までの学習を振り返り、要点を押さえながら自分なりの要約をしている。（観察・ワークシート）	○キーワードやキーセンテンスに着目し、字数を意識して言葉を整理しながら、自分なりに要約している。 ☆キーワードやキーセンテンスに着目し、適切な言葉を選択したり、言葉を整理したりしながら、制限字数以内の要約をしている。（ワークシート）	
まとめる	○第二のまとめを要約した「ステップアップカード」を基に、意見交流を行い、各自の要約を推敲する。	1 本時	○自分と他の要約を比較し、よりよい要約になるにはどうすればよいかを考えようとしている。 ☆自分と他の要約を比較し、よりよい要約になる方法を具体的にアドバイスしている。（観察）	○文章の展開に即して、文章の構成やキーワード、キーセンテンスをとらえ、要約している。 ☆文章の展開に即して、文章の構成やキーワード、キーセンテンスを正確にとらえ、内容を整理して、的確な要約をしている。（ワークシート）	
	○「要約シート」を振り返り、要約する時の方法を自分なりに考えた言葉でまとめる。	1		○今までの学習を振り返り、要約する時の方法について自分なりに考えた言葉でまとめている。 ☆要約する時の方法について、自分なりに考えた言葉で分かりやすくまとめている。（ワークシート）	○文章全体の構成を振り返り、接続関係の理解を深めている。 ☆文章全体の構成を振り返り、接続関係の理解を深め、読み取り役立てている。（ワークシート）

V 学習指導の方針及び配慮事項（●は校内研修との関連）

- 本校の研究主題「意欲を高める教科指導の充実―身に付けさせたい力の定着を図る授業構想の工夫―」に迫るために、国語科では、「生徒の豊かな表現力を育てるために、身に付けさせたい言語能力を明確にし、国語の学び方を習得させる」ということを指導の重点とした。また、5つの

具体的な資質・能力のうち、本題材では、①学習計画を立てる力（学習目標を達成するまでの過程に見通しをもたせる）、②他の生徒との活動の中で自己を伸ばす力（個→グループ、グループ→全体、全体→個などの学習形態の中で、意見交流を取り入れ、考えの広がりや深まりをもたせる）を身に付けさせたいと考えた。

【つかむ段階】

- 『学習プラン表』を提示して、学習目標や単位時間ごとの学習活動を知らせ、学習の見通しを大まかにもたせるようにする。
- 生徒の学習の様子（よさやつまずき等）をつかみ、学習意欲を高めるよう、『学習プラン表』には自己評価欄を設け、授業の感想を書かせる。
- 文章の構成や筆者の主張をつかみやすくするために、段落のはじめの言葉（指示語や接続語）やキーワードを意識させながら、音読と黙読を繰り返すことで、具体的な文章の構成のイメージが図れるようにする。
- 複数ページにわたる教科書の文章を、1枚の「本文シート」にして段落相互の関係をつかみやすくする。また、学習の中で重要だと思われる語句には、「本文シート」に印や線を付けさせることで、学習の足跡を残すようにする。

【追究する段階】

- 要約する際の注意事項をまとめやすくするために、「ステップアップカード」と「要約シート」を活用する。
- 「ステップアップカード」は、①キーワードに着目する、②キーワードを含むキーセンテンスに着目する、③文の中心の部分と付加的な部分の読み分けをする、④制限字数を考える、というような小段階式のことで、要約する際の注意点をスモールステップで意識させる。また、次の段階において、身に付けた力を利用したり、チャレンジしたりする意欲も高める。
- 「要約シート」は、文章の構成を意識しながら、段落の役割や段落相互の関係を考える必要性を理解させるために、「はじめ」「なか」「終わり」の3枚をつなげて一枚のシートにする。また、今までの学びの過程が一目で分かるようにして、考えの深まりを実感させる。
- 問題提起→具体的な事例→筆者の主張という文章の構成や展開を概観することにより、文章の読み取りの観点を明確にさせる。構成がはっきりしている本教材では、要約する順番を「はじめ」「終わり」「なか」の順に行い、問題提起と筆者の主張を先に押さえ、大きな枠をつかむことで、具体的な事例がどのように書かれているかを考えやすくさせる。
- 的確な要約をする方法を自分なりの言葉でまとめさせるために、「要約シート」には、要約をしながら気付いたことや意見交流でアドバイスし合ったこと、推敲して分かったことなどを書き込めるようにする。

【まとめる段階】

- グループによる意見交流を行うことで、自分の意見を吟味したり、補強したりできるようにする。
- グループは3人～4人の構成とし、意見交流の目的や方法を明確に示すことで、一人ひとりが活動する場面を保証し、活発に意見交流ができるようにする。
- 話し合いの場面では、誤字訂正や文の構成などのアドバイスではなく、今までの学習（要約する方法について）を生かすアドバイスになっているか、机間指導を通して支援していく。
- 推敲する場面では、意見交流でのアドバイスを自分の要約の改善に生かしているか、机間指導を通して確認していく。
- 要約する際の注意点を、自分なりの言葉で考え、まとめさせることによって、他の説明的な文章を読むときに役立つようにする。

VI 授業中における生徒指導上の留意点

- 発言やつぶやき、ワークシート等の記述、友人とのやりとり等、学習中の様々な局面における行

動の観察から、生徒一人ひとりの課題に対する思いをとらえる。

- グループでの話し合いや相互意見交流、全体での発表など、学習形態の工夫を行い、生徒一人ひとりの意見や考えを大切にしながら、多様な個性が教師からも友人からも認められるようにし、自己の存在を味わえる場を与えるようにする。

Ⅶ 本時の学習

- 1 **ねらい** グループによる意見交流を通して、各自が考えた第二のまとまりの要約をアドバイスし合い、よりよい要約になるよう推敲する。
- 2 **準備・資料** 本文シート（教科書）、学習プラン表、ステップアップカード、要約シート
- 3 **本時の展開**（本時6時間中の5時間目）

過程	学習活動	時間	学習の支援及び留意事項	評価項目
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の学習への取組を振り返り、本時の学習目標と学習内容を確認する。 ○「要約シート」を基に、文章全体の構成を確認する。 ○第二のまとまりを読む。 	10	<ul style="list-style-type: none"> ○「授業記録帳」により、前時の学習内容を生徒に発表させ、確認する。 ○「学習プラン表」を基に、本時の学習内容を確認する。 ○本時の学習目標は、 『意見交流会を通して、「なか」の要約を推敲する』であることを提示する。 ○「要約シート」①②から要約内容を、③から具体例（微生物の働きを利用する試み）が二つあることを、全体構成図を掲示して確認する。 ○第二のまとまりを、声を出して読ませる。本文シートの印を付けた部分を意識して読むよう指示する。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○第二のまとまりの一つ目の試み（⑦～⑫段落）の要約を確認する。 ○グループになり、それぞれの要約を見て、要約する時のポイントについて意見を交流する。 	25	<ul style="list-style-type: none"> ○前時に要約した「ステップアップカード」を確認する。（前時は無記入の生徒に、キーセンテンスを探そうという支援を行った。） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> 意見交流でみんなの要約をアドバイスし合おう！ </div> <ul style="list-style-type: none"> ○意見交流の目的は、「それぞれの要約がよりよいものになるよう、要約する時のポイントを確認すること」であることを説明する。 ○3～4人のグループに分け、意見交流の方法について説明する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【意見交流の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが要約した「ステップアップカード」を中央に置き、司会の左の人から時計回りで </div>	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分と他の要約を比較し、よりよい要約になるにはどうすればよいかを考えている。 ☆自分と他の要約を比較し、よりよい要約になる方法を具体的に

<p>○各グループで出されたアドバイスを全体に発表する。</p>	<p>読み上げる。 ・全員の要約を読み終えた後、次の①②を中心に話し合う。 ①キーワードは何か。 ②キーセンテンスはどの文か。 ・意見交流の中で、参考になった意見については、「要約シート」の下の欄に記入していく。</p> <p>【予想される生徒の考え】 ①「微生物」「プラスチック」「生分解性プラスチック」「循環」「環境」「自然」 ②《⑩「このように」の後》自然の仕組みの中でうまく循環する製品の開発が環境問題の～ 《⑧「だが」の後》プラスチックには焼却するとダイオキシンなどの有害な物質を～。 《⑨の最後》たい肥に埋めておけば微生物によって水と二酸化炭素に分解されてしまう。</p> <p>○グループ内の意見交流の進行状況に応じて、具体的な助言が行えるようにする。 ○各グループで話し合った内容（アドバイス）を簡単に発表させ、グループから全体へと考えの広がりをもたせる。</p>	<p>にアドバイスしている。(観察)</p> <p>【読む能力】 ○文章の展開に即して、文章の構成やキーワード、キーセンテンスをとらえ、要約している。</p>
<p>○グループの話し合いを基にして、自分の要約を推敲する。</p> <p>【生徒の具体の姿】 ①60字以内を書くことを困難としている。 ②キーワードは抜き出しているものの、言葉をつないで文ができない。 ③2つの試みをとらえ、内容を整理して要約している。</p>	<p>10</p> <p>よりよい要約になるよう推敲しよう！</p> <p>○各グループの意見交流を参考に、自分の要約を振り返り、推敲させる。(「ステップアップカード」を配布する。)</p> <p>【生徒の具体の姿に対する支援】 ①キーセンテンスに線を引かせ、どの言葉が必要であるかを整理させる。[○] ②中心になるキーワードを考えさせ、そのキーワードを含むキーセンテンスやキーワードを結ぶ言葉に着目させ、文章を整理させる。[○] ③発展的に、100字、30字の場合の要約はどうなるかを考えさせる。[☆]</p>	<p>☆文章の展開に即して、文章の構成やキーワード、キーセンテンスを正確にとらえ、内容を整理して、的確な要約をしている(「ステップアップカード」の記述)</p>
<p>終末 ○本時の活動のまとめと自己評価をする。</p>	<p>5 ○本時の学習の自己評価と感想を書かせ、学習の取組を振り返らせるようにする。 ○自己評価と感想は次時の学習に生かせるようにする。</p>	

「おわり」を要約して、筆者の考えを読み取ろう！



（ 段落 ） 段落

★ ⑰⑱の段落から一文ずつ、**重要文**（**キーセンテンス**）を探す。

★ それぞれの文を一文にまとめる。

【今日の発見】

【「なか」の意味段落はどのようなのだろうか？】

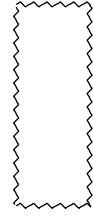


⑤

廃棄物処理の解決策として

を利用しようとする試み

(段落)
(段落)



(段落)
(段落)

例



(段落)
(段落)

例

【今日の発見】

